

書籍名	言葉にできるは武器になる	著者名	梅田 悟司
出版社名	日本経済新聞出版	発行年月	2016年8月

本書は、よく売れています。著者の梅田はコピーライターです。

私たちは日常的に言葉で人と会話をし、言葉で物事を考え、理解を深めます。

そして感動を言葉に表すことで、小さな生きがいを感じることもさえます。

本書のテーマは「内なる言葉」の存在に気付き、その言葉を鍛えることを提唱しています。

「内なる言葉」とは、日常のコミュニケーションで用いる言葉とは別物であり、無意識のうちに頭に浮かぶ感情や、自分自身と会話をすることで考えを深めるために用いている言葉です。

私たちが考えを広めたり、深めたりする時には、この「内なる言葉」を駆使しています。

人は言葉で人間的に成長を果し、その言葉は思考を磨くことで鍛えられます。

思考を磨くときに、立ちちはだかる壁があります。常識という壁、苦手意識の壁、前例という壁、人の目という壁を超えることで思考は深まります。

梅田は、「言葉にできない」ことは、「考えていない」のと同じであるとまで言い及びます。

日頃の忙しさの中で、「楽しい」「うれしい」「悲しい」といった常套句で、大切な感情が単純化されたままに放っておかれています。言葉が貧しければ、考えは深まりません。

自分の根底に流れている価値観や思考を言葉にできれば、よく生きることが出来るでしょう。

現在、健康寿命を期待して筋トレブームが続いています。

筋トレは、今自分が使っている筋肉に意識を向けることで最高の効果を発揮するそうです。

思考も同様で、「内なる言葉」に意識を向き続けることで効果が格段に上がります。

梅田が主張するように、私たちは自身の感情と向き合っていません、と言うよりも向き合う方法を知りません。

感情に向き合うことがなければ、自分の価値観に気づく事はありません。

人生が豊かだとか、幸せは、自分も気付いていない価値観や人間性との対面から

生まれてくるように思います。もう一步、あと一步、自身の感情と向きあう習慣を持ちませんか…

なぜ小津安二郎の映画に魅了されるのだろうか？

日野正平の「こころ旅」(NHK)を見ると、どうして「ほっこり」するのだろうか？

本書のタイトルは「言葉にできるは武器になる」ですが、「言葉にできるは生きる武器になる」と読み取りました。

岩城



やっと寒さの峠は越えた!?暖かくなると旅に出たくありませんか?認知症の方、障がいのある方、難病の方が家族にいる方々も同じ?
 今回は愛知県南知多町にある「福祉旅館」サポートイン南知多を紹介します!最近見ていると、介護事業だけでなく、障がい福祉事業、
 飲食事業、リゾート開発事業、農業にまで事業拡大し多角経営を行う法人が増えてきた。元々は、名古屋市内で高齢者グループホームを
 運営していたマザーズグループもその1つ。現在は、住宅型有料老人ホーム4棟、ナースホーム5棟、日中サービス支援型障がい者グループ
 ホーム5棟、障がい者シェアハウス1棟、就労支援B型、訪問看護、小規模多機能型居宅介護など枚挙にいとまがない位多数のサービス展開!
 平成30年4月にオープンしたサポートイン南知多は、2階建/全館バリアフリー/洋室2部屋+和室6部屋。お風呂は電動リフトを使い、ジェット
 バスに入浴可能、もちろん貸切OK、入浴介助も可。シーツ交換、給仕、料理盛付は、就労支援の利用者8名が担当。実際の宿泊客は
 9割が認知症や障がいのある方を含む4-5名の家族連れとか。チェックイン前までのアセスメントと、チェックイン後のスタッフの繊細な視線や声か
 けが大事とは大杉マネージャー。食事形態(刻み食/とろみ食/ミキサー食)や入浴、部屋の要望を尋ね、1日をトータルで見て対応できるアセスメント
 シートを作成、何度もやり取りし、チェックイン時にやっと会えましたね!となることも。こんな旅館があちこちにあればいいのに...と心底思います。
 「福祉が当たり前にあるまちづくり」を目指すマザーズグループは2026年開催の名古屋でのアジア大会選手村利用後の街づくりメンバー
 発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤  に選定され、農業も取込み福祉ゾーンを担う。これから
 所在地:〒541-0048 大阪府中央区瓦町3-4-87サビビル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 が楽しみな法人だ。

